

## 【資料1】

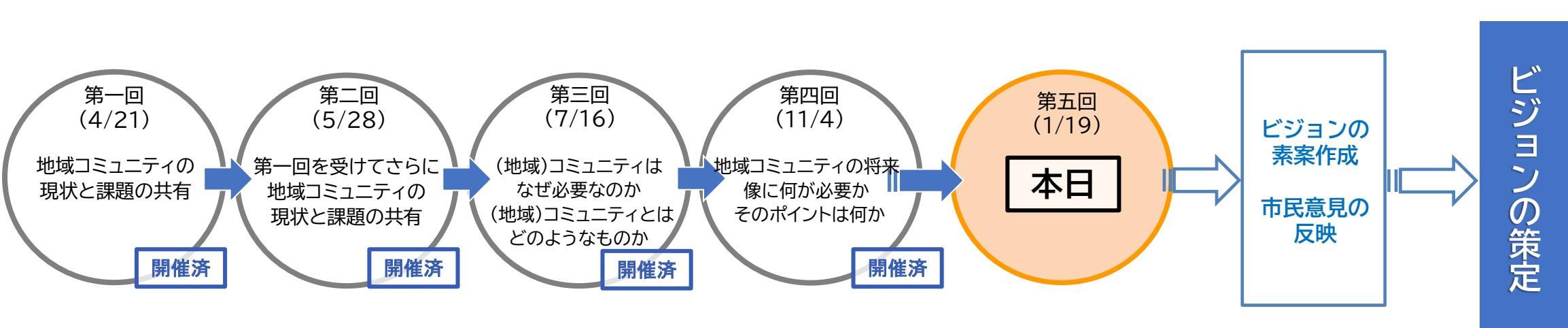
# これまでの振り返りと本日の議題について

骨太の方針

## 北九州市地域コミュニティビジョン

### 未来像「多様な主体による全世代参加型地域コミュニティ」

- ① 望ましい未来像を描き、そこから逆算して課題を解決
- ② 3つの大事な視点  
「必要に応じて現状から変化」「関係者の垣根を越えて接続・連携」「好循環を生み出していく」
- ③ 市民性・気質を踏まえた議論を



## 第四回の議論の振り返り

地域コミュニティの役割(原点):人の幸福(Well-being)に必要な人とのつながり  
誰もが多様なコミュニティへ参加している

○ 地域活動に関するアンケート調査(WEB)

○ 行政から自治会等への依頼業務の洗い出し

地域コミュニティの将来像に必要な3つのポイントとして、

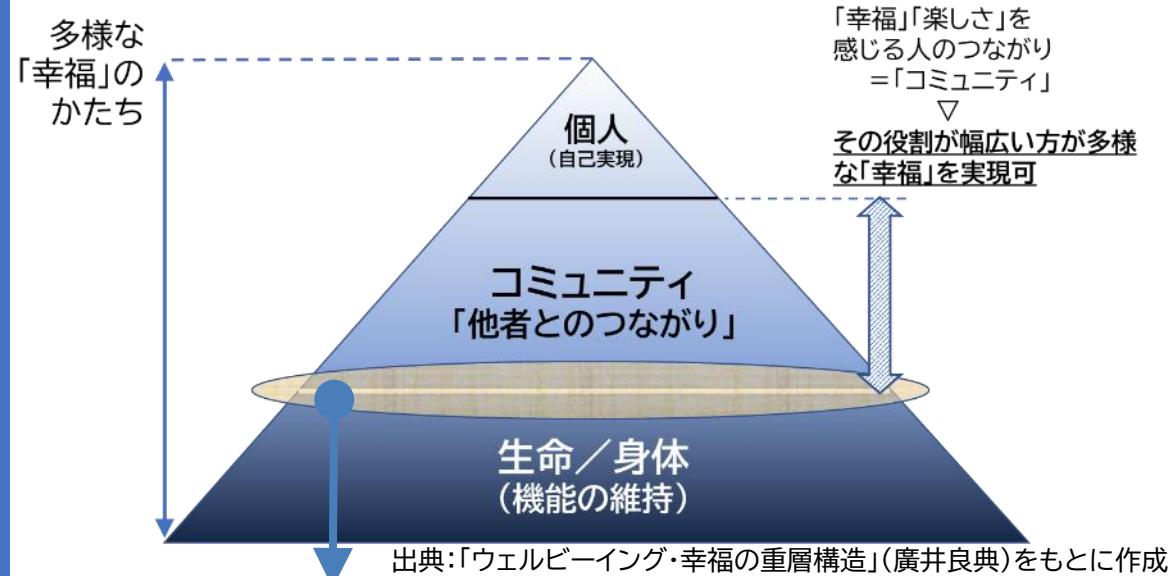
- 「楽しさ」や「興味」から「やりがい」へ
- 地域課題の解決に多様な主体の力を結集
- 地域活動に必要な資源が循環する仕組み

(会議の意見)

- ・若い世代に地域活動に参加いただくためには、子ども・学校を核とした地域づくりが非常に大事。
- ・子育て世代も隙間時間を活用してアイデア発信したり、活動に共感した人が資金を支援したりする仕組みが重要。
- ・これからはデジタルが重要で、若い人を取り込むには有効。活動のスリム化にもデジタル化は有効。
- ・シニアが新たな力(デジタル)を身につけ、みんなで助け合っていく。
- ・地域コミュニティにおける「安全・安心」についてもう一度整理したほうが良い。

3つのポイントを確認。将来像を実現するための具体的な取り組みは何か。

幸福の重層構造

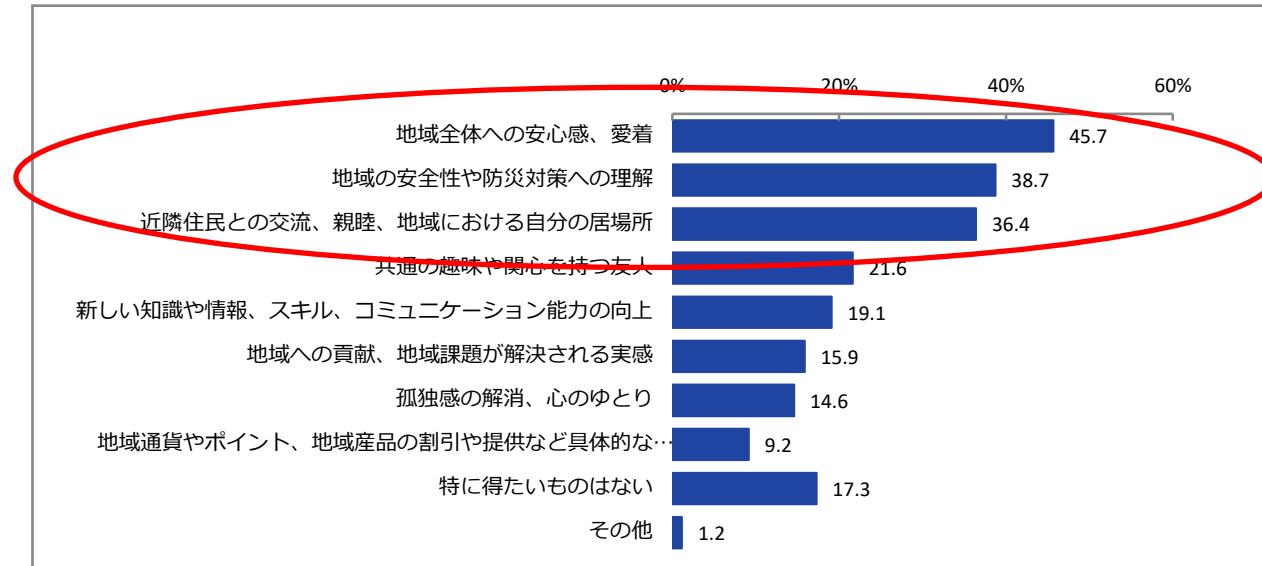


「生命／身体(健康)の維持」に近い機能は、  
安全安心のために大事

例:防犯・防災、見守り、ごみ

地域活動に関するアンケート調査

(Q:あなたが地域活動で得たいものは何ですか)



「地域全体の安心感、愛着」「安全性や防災対策」  
「地域住民との交流、居場所」が求められている

例:交流イベント、居場所づくり(サードプレイス)

地域に必要な活動が継続的になされること = 「安全・安心の核」

### 第五回で議論したいこと

- ・3つのポイントを実現するために必要な、具体的な取り組みは何か。

# これまでの議論から見えてきた「取り組みのアイデア」

## デジタル技術 の活用

「デジタルが重要。若い人を取り込む、活動のスリム化にも効く」  
「紙の配布はやめて、会議はWeb、情報はLINEで十分という事例もある」  
「デジタルは人と人を結び、つながりを育てるツール」  
「シニアや大学生がデジタルを教える側になれる。助け合いになる」  
「デジタルで感謝を伝えやすくする仕組みがあれば、やりがいにつながる」

- ① 参加しやすいコミュニティに向けたデジタル環境の整備  
(例)アプリによる情報共有・連絡調整・決済、オンライン会議の開催  
行政手続のオンライン化、シニアのデジタル人材の育成 など



# これまでの議論から見えてきた「取り組みのアイデア」

## 地域の拠点・居場所の確保

「市民センターで、楽しみながらアイデアを形にできるとよい」  
「市民センターのルールは、もっと簡素で柔軟でもいい」  
「市民センターは、多世代・多様な人が交わる場として使える」  
「学校は、子どもだけでなく地域の接点になり得る」  
「居場所があること自体が安心感につながる」

- ①地域のコミュニティ拠点施設の整理・確保・多機能化の推進
- ②多世代が集う「サードプレイス」機能の充実



花野路地区の  
子どもから高齢者まで集う  
子ども食堂『はなのじカフェ』



# これまでの議論から見えてきた「取り組みのアイデア」

## 地域の連携・ 協働機能の強化

「子どもを地域で育てる視点」  
「学校を核にPTA、地域、OB、先生、企業などが関わる形」  
「テーマがあれば若い人は関心を持つ。自治会という枠にこだわらなくてよい」  
「自治会だけで全部を担うのは限界。NPOや企業、大学とも役割分担が必要」  
「若い世代に企画を任せると、同世代が集まりやすい」



- ①地域と、大学やNPO・企業等をつなぐプラットフォームの整備
- ②地域リーダーのスキルアップ・育成や地域運営の好事例の横展開



# これまでの議論から見えてきた「取り組みのアイデア」

## 地域団体の目的や役割のスリム化・効率化

「目的や取組が多すぎて、かえって活動が伝わらない」  
「行政からの依頼業務が多く、負担になっている」  
「行政が地域に仕事を頼むなら、対価があってよい」  
「地域が本来やりたいことに集中できる形にすべき」



### ①地域団体が担う行政機能の再整理・再構築

(例)デジタル技術を活用した代替手段の確保

団体側にニーズのない動員・広報依頼の廃止、委員選出依頼の見直し

### ②地域団体間の役割の調整・整理(例:西小倉校区の取組)



# これまでの議論から見えてきた「取り組みのアイデア」

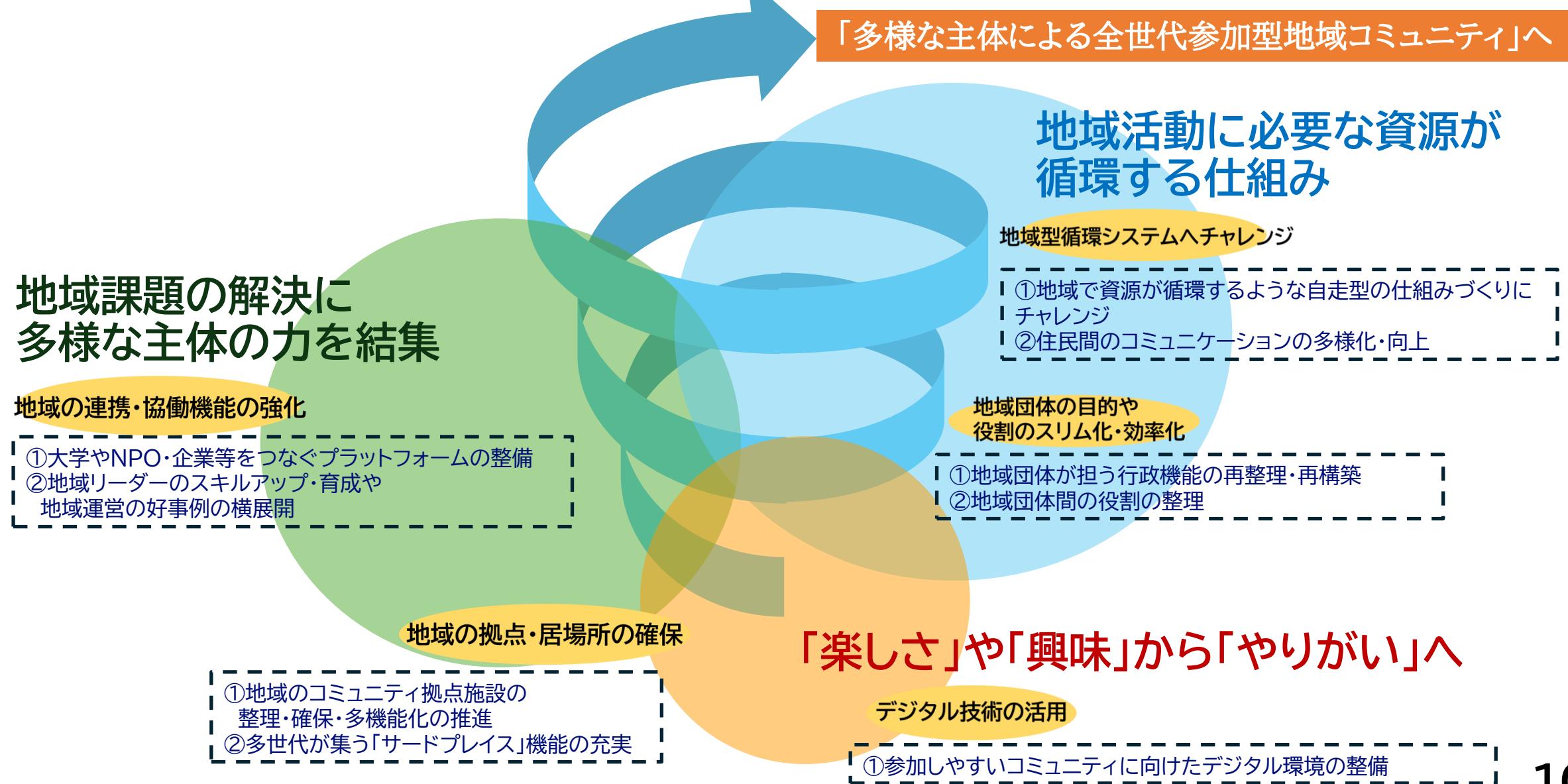
## 地域型循環システムへ チャレンジ

「活動に共感した人が、資金で応援できる仕組みがあつてよい」  
「補助金だけに頼らない地域活動を考えるべき」  
「『ありがとう』のメッセージが、地域活動のやりがいにつながる」  
「人材、時間、情報、お金が地域の中で回る仕組みが必要」

- ①地域で資源が循環するような自走型の仕組みづくりにチャレンジ  
(例:長行市民センター「こいのぼりリメイクプロジェクト」など)
- ②住民間のコミュニケーションの多様化、向上



## 3つのポイントとのまとめ(イメージ)



# 意見交換

# 今後の予定

# ビジョン策定に向けて素案をまとめ、市民から意見を伺う

令和7年度

令和8年度～

(これまでの議論)

地域コミュニティの  
現状と課題



(地域)コミュニティは  
なぜ必要なのか

(地域)コミュニティとは  
どのようなものか



地域コミュニティの将来像に  
何が必要か  
そのポイントは何か



具体的な取り組みは何か

今後の取組

ビジョンの素案作成  
(事務局)



(素案についてのご意見)

- ・構成員の意見
- ・関係団体のヒアリング
- ・パブリックコメント
- ・タウンミーティング

ビジョンの策定

ビジョンの具体化に向けた  
議論をスタート

(例)

- ・地域団体の行政機能のスリム化
- ・各区の地域特性や団体ごとの課題  
を踏まえた個々の将来像の検討

(案)必要に応じて  
テーマ別の会議を設置

〈行政の体制〉

(仮)庁内推進本部  
の立ち上げ

⇒組織横断的な検討・執行  
体制を整備